

ソーシャルワーカーデー 2026 in あいち

ソーシャルワーカーの活動の普及推進を目的に、2009 年より「海の日」をソーシャルワーカーデーとし、毎年全国各地で様々なイベントが開催されています。愛知県では例年 7 月に、日本ソーシャルワーク学校連盟東海北陸ブロック（ソ教連）・愛知県社会福祉士会・愛知県精神保健福祉士協会と共催しています。

今年はソ教連の今年度の担当大学である同朋大学の協力を得て、7 月 12 日（日）の同朋大学のオープンキャンパスと同日にソーシャルワーカーデー2026in あいちを開催しました。

内容としては各団体の特徴や扱う制度等、団体毎で内容を企画した常設ブースと、若手ソーシャルワーカーがリアルな体験談を語るライブイベントという構成で行いました。

■内容

愛知県社会福祉士会では、ソーシャルワーカーに関連した「災害」「司法」「ヤングケアラー」等々についてクイズ形式で触れることができたり、社会福祉士になるルート（複数）の可視化がされていました。また、自分がどんな福祉ヒーローのタイプなのかを、いくつかの質問に答えることで知ることができる参加型のブースがありました。

愛知県精神保健福祉士協会では、「うつ病」「カウンセリング」「ゲーム依存症」「家族支援」等といった精神保健福祉士が関係するキーワードを記載。テーブルには、精神疾患に関わる書籍や漫画などの展示もありました。他には、当事者の方の作品があったり、VR を活用した SST（ソーシャルスキルトレーニング）の体験コーナーも設置されていました。

愛知県医療ソーシャルワーカー協会では、協会の紹介をしつつ、「急性期」「回復期」「地域包括支援センター」それぞれの MSW の仕事紹介動画を使用。また、ACP を知る機会として「もしバナゲーム」を用意し、来場者の方に体験してもらえるように準備をしました。実際に当日は、1 日を通して 15 名の方に体験いただくことができました。



ライブイベントでは、各団体の若手ソーシャルワーカーに登壇いただき、「ソーシャルワーカーを目指した理由」や「初めて担当ケースを持った時の気持ち」、「ソーシャルワーカーをしていて良かったこと」等について、現役の若手ソーシャルワーカーのリアルな体験談や思いを熱く語っていただきました。午前と午後で 2 回開催し、計 70 名近くの方に参加していただきました。



■開催してみて

「ソーシャルワーカーを目指す学生さんを増やしたい」という思いから主ターゲットを「高校生」と捉えていたため、今回の大学のオープンキャンパスとの同時開催は、主ターゲットに発信ができる良い機会となりました。

当日、常設ブースには 60 名を超える方々に来場いただきました。高校生が友達同士で来たり、親子で参加されている方もいました。中には、ソーシャルワーカーを既に知っている、興味がある、という方もおり、その方々と現役のソーシャルワーカーが直接顔を合わせることができ、交流できたことはとても実りある時間になったかと思います。オープンキャンパスと同時開催は初の試みでしたが、無事終わることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

県民や学生にソーシャルワーカーの魅力を伝え、ソーシャルワーカーの普及や活躍を通じて県民の福祉が向上するように、関係団体と共に今後も様々な企画を推進していきます。

（文責 ソーシャルワーカーデー実行委員会 委員長 渡邊啓后）